

令和2年度 あわら市の 予算

問合せ 73-8008

「誰もがとぎめくあわら市」を目指して

令和2年度一般会計当初予算の総額は、歳入歳出それぞれ154億1000万円、前年度と比較して7億1000万円、4.8%の増となりました。
この要因として、芦原温泉駅周辺整備事業や北陸新幹線建設事業負担金、北陸新幹線整備関連事業における大幅な増額が挙げられます。

市の貯金

— 財政調整基金

市の貯金である財政調整基金は、令和元年度末で前年と比較して7800万円減の28億1300万円となる見込みです。令和2年度では、財源不足を補填するため7億2000万円の取り崩しを計上しています。

市の借金

— 市債残高

市の借金である市債は、令和元年度末で約180億2700万円となる見込みです。令和2年度では、芦原温泉駅周辺整備事業などの費用に充てるため約17億7400万円の借り入れを予定しています。令和2年度では、前年と比較して約3億3200万円増の183億5900万円となる見込みです。

各会計の当初予算額 (合計 221 億 2115 万円)

一般会計 154 億 1000 万円

市の基本的な行政サービスの経費を収支する会計

特別会計 34 億 1830 万円

保険料など特定の収入で特定の支出に充てる会計。収入の使い道が決まっているため一般会計とは分けています。

国民健康保険特別会計	30 億 5950 万円
後期高齢者医療特別会計	3 億 5380 万円
農業者労働災害共済特別会計	500 万円

企業会計 30 億 8005 万円

一般の会社と同じように、独自の収入でその経費をまかなう「独立採算」を原則とする会計

水道事業会計	9 億 7812 万円
公共下水道事業会計	21 億 193 万円

芦原温泉上水道財産区水道事業会計 2 億 1280 万円

芦原地区の特定区域（財産区）の水道事業を運営する会計

主な事業の予算額



北陸新幹線周辺整備事業 (基幹整備) 14 億 9821 万円



食品加工施設等整備支援事業 1008 万円



子ども医療費助成事業 8915 万円



移住定住促進事業 1135 万円



空き家活用促進事業 1950 万円

家計簿でチェック

今年度の一般会計当初予算を年収約513万円（3000分の1）の家庭に置き換えて家計簿にしました。

1年間の収入合計 約513万円	
基本給与 (市税)	152万 8279円
諸手当 (分担金及び負担金)	7万 9612円
副業収入 (使用料及び手数料)	5万 5431円
預金の取り崩し (繰入金)	26万 5239円
臨時収入など (寄付金、財産収入など)	26万 9026円
親からの援助 (交付税、国県補助金など)	234万 7880円
銀行からの借り入れ (市債)	59万 1200円
貯金残高 (財政調整基金)	93万 7667円
借金残高 (市債残高)	600万 8946円

1年間の支出合計 約513万円	
食費 (人件費)	85万 755円
医療費 (扶助費)	94万 8741円
光熱水費、消耗品費など (物件費)	55万 2086円
子どもへの仕送りなど (補助費等)	90万 1258円
家や車などの修繕費 (維持補修費)	1万 7442円
家などの増改築 (普通建設事業費)	95万 2902円
借金返済 (公債費)	50万 5431円
貯金 (積立金)	4476円
その他 (予備費、貸付金、繰出金など)	40万 3556円

収入をみると、昨年より基本給与は減っており、収入の半分近くは親からの仕送りに頼り、銀行からの借り入れも毎年行っています。今後は、親からの仕送りや借り入れの依存を少なくし、基本給与や諸手当、副業収入の増に努めるとともに、支出を抑えていくことが必要です。

支出では、食費や医療費、借金返済などの節約が難しい経費が約4割を占めています。これまで、食費や光熱水費、消耗品費などを切り詰めてやりくりしてきましたが、今後もより一層の努力が必要です。

一般会計当初予算規模 154 億 1000 万円

